

東はりま甲南会報

第22号

発行
東播磨甲南会

【事務局】
〒675-0017
加古川市野口町
良野365-11

行政書士澤本事務所
澤本武司 気付

TEL 079-421-1747
FAX 079-439-2842
E-mail
sawamoto@gyosei.or.jp

今年度総会の御案内
日時 ● 2019年6月1日(土)
午後5時30分より
会場 ● 加古川プラザホテル

こちらのQRコードから
東播磨甲南会のHPが
ご覧頂けます



(左)長坂学長、(右)三宅会長

東播磨甲南会
会長 三宅 隆宏

有限会社共立サールス
取締役 会長
(経営学部 昭和41年卒)

今年大阪甲南会3月例会の講師は甲南大学卒業生で元教授上村多恵子氏。その場で購入した甲南学園創始者の自伝、小川守正・上村多恵子両氏共著「平生八飢三郎伝」私には珍しく一気に読み切った。軍人台頭時代に媚びることなく恐れず軍部の横暴を批判した態度は尊敬、世渡り上手?で大勢に流され易い私には到底無理。

①「健全な常識を持った世界に通用する紳士たれ」
②「人生三分論」

は平生さんの有名な言葉。
私は今この①②を目標にしている。

①の理念の「健全な身体を養う」は毎朝6kmウォーキングと週一ゴルフで。それなりに独自の個性もある。武士道精神

「恥ずべきこと」はするなはやっている。問題は英語力。
今年からNHK英会話番組と文化サークル講座で英会話を学び始めた。あわよくば挫折しないことを望む。

②100歳迄あと25年、三分論の最終局面。90歳までやれる社会奉仕活動を模索中。マイライフプランとして人に役立ち家族にも喜ばれる終焉を迎えたい。創始者平生さんを目標に生きる。スケジュールは小さいが:



学校法人 甲南学園
理事長 吉沢 英成

東播磨甲南会の皆様、「正志く強く朗らかに」お越しのこととお慶び申し上げます。甲南学園はいよいよ101年目のスタートを切りました。岡本のキャンパスには101年目の年輪を刻みはじめたヒマラヤ杉をはじめ、木々の緑、サクラやサツキの花々、清新な新入生、心を澄ませた2回生、誓い強い3回生、誇り高い4回生のすがたが賑いをもたらしています。今年にはヒラオの名が学名に入っているヒラオヤナギ、そして平生飢三郎のご息女 富士子さんの名の入ったカメラリヤフジコアーナという種類の



甲南大学 同窓会
会長 立野 純三
株式会社エニオン
代表取締役社長

東播磨甲南会の会員の皆様、平素は大学同窓会の活動に多大なるご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

甲南大学同窓会は昨年、「リボン61」とテーマを定めて2019年の学園創立100周年に向けてのステップの年として、「オール甲南の集い(リボン61)」等を実施し、成果を上げることが出来ました。各甲南会のご協力のお蔭と感謝申し上げます。今年度、「甲南学園創立100周年」を迎えるにあたり、甲南大

の山茶花も平生の旧邸(現平生記念館・平生セミナーハウス)から株分けして移植され、新しく岡本の学び舎を飾っています。

皆さまから頂いたご芳志をもとに建てられたiCommonsはますます活発に活用され、甲南新世紀教育のあり方のシンボルとなっています。

お気軽にぜひ甲南大学にお立ち寄りください。見違えるようになっていますが、皆さまの学びの故郷です。正門、正門わきの石積み屏、正門から1号館へのゆるやかな登りのアプローチ、一本松など必ずや懐しさも味わっていただけ

ます。

100周年募金を忘れていたという方々、ご寄付をもう一度という方々、2020年の9月までお待ちしていますのでぜひご芳志賜れば幸いです。

学同窓会はこの記念すべき年を同窓生みんなで祝い、「誇り高し我々の絆」を再確認して、未来へ繋げていきたいと思えます。旧帝国大学の教養部分を担っていた、私立旧制高校から大学に移行したのはわずか4校だけです。この伝統ある「甲南スピリッツ」を同窓生や現役学生にも持ち続けてもらいたいという願いを込め、新しい出会いの場を創り交流を深めます。次の100年に向かい、「我が道を進め」との教えを守り、同窓意識を更に高め、会員相互の親睦を通じ甲南学園および会員相互の発展に寄与するように活動します。是非ご協力頂きたくよろしくお願

い申し上げます。

東播磨甲南会の会員の皆様が、三宅会長を中心

に力を合わせ、より貴会が発展されることをお祈り申し上げます。

東播磨甲南会 第27回総会ご案内

- 日時
2019年6月1日(土)
17時30分~18時: 総会
18時~19時: 講演会
19時~21時: 懇親会
- 会場
加古川プラザホテル・2F
TEL 079-421-8877
- 会費
男性 6,000円
女性 4,000円
*新入会員の方は
入会金1万円のみ。
- 服装
カジュアル
(ノーネクタイ、
ジーンズもOK)

『いま、刑事裁判はどうなっているか?』

ゴン事件、裁判員と死刑、
司法取引など一緒に考えてみましょう!

講師 わたなべ ぎしゅう
渡辺 顕修 氏 甲南大学 法科大学院長・教授、
弁護士(大阪弁護士会)

加古川「知」を結ぶプロジェクト

行政・大学・地元メディアによる 地域の課題解決

平成31年2月9日(土)、加古川総合保健センターウェルネージュホールにて加古川「知」を結ぶプロジェクト「行政・大学・地元メディアによる地域の課題解決」の成果報告会が開催された。主催は加古川市及び甲南大学、共催は神戸新聞、協力は東播磨甲南会である。

【当日の様子・参加者】

本年度の加古川「知」を結ぶプロジェクト成果報告会では、市内5つの企業・団体が抱えるそれぞれの課題について甲南大学生7チームが調査研究し、解決方法を提案・発表した。

参加チームは発表順に倉本プロジェクト3年生、西村ゼミ2年生、北居ゼミ2年生、西村ゼミ3年生、甲南選抜(岡村)チーム3年生、柘植ゼミ3年生、岳ゼミ4年・院1年生。

今回のプロジェクトに協力した企業・団体等は、加古川まちづくり舎、加古川商店街振興組合連合会、有限会社りんどろ、加古川市秘書広報課、加古川観光協会である。

【審査・講評】

最優秀賞を獲得したのは、有限会社りんどろの新規顧客へのPR方法を考案

した西村ゼミ3年生チームだった。講評においても、素晴らしい。どこかにツッコミどころが無いか探してみたが、無かった。という意見があった。

加古川市賞を獲得したのは加古川商店街の中・長期的な活性化のために、食と居心地にこだわったイベントを企画した同ゼミ2年生チーム。

甲南大学賞を獲得したのは有限会社りんどろの料理人などの確保が難しくなりつつある問題を分析しより良い方法を模索した北居ゼミ2年生チーム。

神戸新聞社賞を獲得したのは「食事をすすめる率が低い」「滞在時間が短い」といった加古川市の観光課題に対し、「加古川LINEウォーカー」を提案した岳ゼミ4年・院1年生チーム。

成果報告会の後、本会主催の懇親会にて、本年度より新設された



東播磨甲南会賞を加古川のシティブロモーションとしてバーチャルユーチューバーというコンテンツの利用を提案した甲南選抜(岡村)チームに授与させていただいた。講評では、地元高校生の生の声を動画を使って取り入れた点が特に評価された。

懇親会では、学生達は審査を担当した方々や当会員と交流を深めるのももちろんのこと、真剣にメモを取り今後には生かそうとする姿が見られた。これは毎年見られる姿であるが、回を重ねるにつれ、より懇親会を有効活用していただけるようになっていくと思う。東播磨甲南会賞の授与を行ったことで、学生達とOB・OGの距離もより近づいたように感じられた。地域、母校の発展を願いつつ、今後とも我々は共に歩んでいきたいと思う。

近隣甲南会に参加して

平成30年11月10日(土)に開催された明石甲南会秋例会に参加した。明石甲南会に参加するのは二度目である。前回は、ホテルでの懇親会とブラジル人が演じるサンパシヨの鑑賞であり、本場のキレとスピードに圧倒された記憶があり、期待に胸を膨らませ今回も参加した。



集合場所のJRR明石駅からタクシーで最初の会場に移動。向かった先は「蛸老亭」というお店。広いホールにテーブルと玉子焼きの器具が所狭しと並べられていた。大型バスで来場する人もあるようだ。「何をやるのかなー」とどきどきしているうちに、明石名物「玉子焼き」の自作体験と蛸釜飯を食べる催し。「自分でできるのかなー?」と不安に思った。この例会に参加されている皆さん(明石甲南会の会員さん、他地域の甲南会の方等)を見ると、私より先輩も多数、「うまくできるのかなー」と思いきや、皆さんそれなりの玉子焼きになった。自分で焼いた玉子焼きは店で食べるのよりもおいしく感じた。

明石名物「玉子焼き」を食した後は、菊花展開催中の明石公園散策。明石甲南会小山幹事長による明石城築城にまつわる歴史の説明があり、宮本武蔵が明石城周辺の街づくりに協力したことなどを伺ったことで、明石と東播磨地域のつながりを感じた。

食欲と好奇心が満たされた楽しい一日であった。会員の皆さんも明石甲南会をはじめ、近隣甲南会に参加されてはいかがでしょうか。

(S62年理 新濱義孝)

会員企業紹介



地元でしか(しゅん)味わえない味季を

企業訪問第7回目の今回は、
味季(しゅん)料理りんどうの宮本了介さんにお話を伺いました。

卒業年度と学部、ゼミ等を教えてください

平成14年、経済学部です。経済学部ではゼミは1、2回生のみだったため印象が薄いです。3回生の時に単位を取り終わつたため、4回生ではゴルフ部の活動に力を入れていました。



(兄)了介さん、(弟)隆太さん

学生時代で思い出に残っていることは

ゴルフとフランスへの語学留学です。1ヶ月の語学留学で弟が通っていたトゥレーヌ甲南へ行き、その後語学学校へ行きました。語学学校ではフランス語でフランス語を教わるため難しく、大変でした。

それ以外では特にゴルフの印象が強くて、常にゴルフの練習をしていました。皆が熱心だったこともあり、当初2部だったのが在籍中に1部リーグに上がりました。料理の世界に入つてから久しぶりにゴルフをやつたら、かなり下手になっていて落ち込んだ思い出があります。

「らんど」の魅力を教えてください

りんどうは74年創業で、元々は母方の祖父のお店で和風パスタなどを出す和風喫茶をやつていたのですが、81年の建て替えを機に和食に変わりました。今は父が社長をしています。お店が一人で回せる大きさではないので、私はどちらかというと経営の方をやっており、弟が料理長を務めています。弟は国際ソムリエの資格

を持つており、フランスと神戸の料理店で修行した後りんどうに入りました。国際ソムリエというのは日本で10数人ぐらいしかおらず、弟が日本人初のゴールド認定を頂いています。りんどうは地元の食材をふんだんに使つた料理が特徴で、より安心・安全な食の提供を目指しています。地元を大切に、地元の人に愛されるお店であり続けたいと思います。

「らんど」で働くことになったきっかけは何ですか

学生のときからサラリーマンになりたくなかつたのと、せめて祖母が生きている間は店を守りたかつたんです。当時、料理人かつ経営者というタイプの人がいなかったのですが、これになると強いと思つたのでまず料理人になりました。

今の仕事をするなかで大学での勉強との共通点等がありますか

勉強という意味では直接関係ないのですが、生活を自分で組み立てる「大学生活」というのが人生において非常に大きな強みになると思えます。料理人の中でも、大学生活を送つた人は、自分で「考える」という事が深く入り、視野が広がるのかなと思います。

「らんど」のメニューの魅力を教えてください

食材に関して、地元の生産者さんのものを使つてやうっていくということを重視しています。地産地消がよく言われるようになった時代ですが、我々はずっと踏み込んで、地域の人達とお店が関わりを持つたより深い地産地消を目指しています。「どこどこ誰が作ったもの」であ

り、「こういう思いで作られた食材」であるということのアピールしていきたいです。

実は加古川産の食材というのは多種多様なのですが、加古川に住んでいる方にもあまり知られていなかったりします。例えば有名なオクノさんの卵は、鶏が地元で取れた米を食べ、その糞等をまた肥料にすることで地元でサイクルが回るようになっていきます。日本酒は岡田本家さん。お野菜は高御位山の方で他種目少量で作つているものを生産者の方と仲良くなることで卸していただけるようになりました。加古川海苔に関しても毎年一番摘みの柔らかく美味しい海苔を生海苔として直接もらつてくるのですが、これも普通は買えません。

これらを使つたりりんどうのメニューは、地元でしか味わえないものとなっております。

どこでも食べられるものではなく、加古川でしか食べられないという価値を地元で守れるようにしていきたいと思つています。かつめしも加古川でしか食べられないですし、旬と特産を合わせた、より美味しく安心して食べる食事を楽しんでいただければと思います。

今後の展望などあれば教えてください

地産地消を広げていきます。自分で足を運んで食材を探し、生産者まで踏み込んだ地域との密な繋がりをどんどん作つていくつもりです。

そういうえば、加古川の川の水のものが一般に売っていないのが非常に残念で、できれば取り扱ってほしいのですが、どうしたら買えるのか分からないのが悩んでいます。実は、大堰の下まで鮎などがきているんですね。上流にはいるんです。色々獲れるはずですから、ぜひ扱ってみたいですね。

本日はありがとうございました。



ゴルフコンペ

東播磨甲南会開催のご報告



平成30年11月22日 曜日 小野ゴルフ倶楽部におきまして、参加者8名(会長ドタキャン)による第12回東播磨甲南会ゴルフコンペを開催いたしました。

ティーフまではあいにく雨模様でしたが、皆様の日頃の行いが良かったため、スタートと同時に天候は回復しました。久しぶりにご参加いただいた籠谷紘義さん(S40・営卒)を含め3組でのプレーは順調に進みました。持病による体調不良により、途中離脱者が1名ありました。名譽のためお名前前は伏せてさせていただきます。

ダブルペリア方式による優勝は、大村泰司さん。2位 大西信良さん。3位富居雅人さん。参加メンバーの小山利明さん、丹後昌博さんよりニアピン等賞品の協賛をいただきました。ありがとうございました。

来年の次回第13回ゴルフコンペは加古川ゴルフ倶楽部でのコンペを予定しております。11月の何かとイベントの多い気ぜわしい時期ではありますが、紅葉も楽しめるこの時期に年に一度の開催を継続しています。皆様のご参加よろしく申し上げます。(担当・澤本)

東播磨甲南会ゴルフコンペ収支の件

項目	収入	支出
参加費	¥5,000×10 =¥50,000	
協賛金(小山様より) 賞品協賛(丹後様より) 不足補填(澤本より)	¥13,486	
賞品代		¥28,000
会食代		¥32,820
コンペ案内用葉書		62円×43枚 =¥2,666
合計	¥63,486	¥63,486

2018年度事業報告 (2018年4月1日～ 2019年3月31日)

- 平成30年5月1日 機関紙「東播磨甲南会報」第21号発行
- 平成30年5月26日 阪神甲南会初夏例会出席
- 平成30年10月21日 全国甲南会出席
- 平成30年10月21日 「オール甲南の集い」出席
- 平成30年11月22日 ゴルフ同好会親睦コンペ開催
- 平成30年6月8日 明石甲南会総会出席
- 平成30年6月10日 宝塚甲南会総会出席
- 平成30年11月10日 明石甲南会秋例会出席
- 平成31年2月9日 加古川「知」を結ぶプロジェクト成果報告会出席
- 平成31年2月28日 大阪甲南会新年例会出席

2018年度会計報告 (2018年4月1日～ 2019年3月31日)

	支部援助金 315,096		総会費用 256,978
	預金利息 6		機関紙発行・送付費用 118,300
	入会金 30,000		事務所費 500
歳入	臨時会費 202,000	歳出	振込手数料 756
	前年度からの繰越金 743,724		切手代・コピー代 520
	他甲南会参加費 31,000		加古川「知」を結ぶプロジェクト交流会費 16,007
	前年度からの繰越金 866,765		次年度へ繰越 866,765
合 計	1,290,826	合 計	1,290,826

2019年度事業計画 (2019年4月1日～ 2020年3月31日)

- 同窓会本部行事への参加
- 友好支部総会等への表敬訪問
- 機関紙「東はりま甲南会報」第22号発行
- 総会開催
- 役員会等開催
- ゴルフ同好会親睦コンペ開催

2019年度予算 (2019年4月1日～ 2020年3月31日)

	入会金 40,000		総会費用 250,000
	臨時会費 230,000		機関紙発行・送付費用 170,000
	支部援助金 160,000		他甲南会参加費 20,000
歳入	預金利息 5	歳出	事業費 (加古川「知」を結ぶプロジェクト交流会費他) 40,000
	前年度からの繰越金 866,765		次年度へ繰越金 816,770
合 計	1,296,770	合 計	1,296,770

東播磨甲南会 役員組織(案) (H29～H31年度)

顧問 渡邊東(S40経済)	〈総務委員会〉	
会長 三宅 隆宏(S41経営)	委員長 岩崎 泰央(S62法)	
副会长 大庫 良一(S54経済)〈筆頭〉	副委員長 藤原 武彦(S60経営)	
中尾 知也(S50法)〈総務担当〉	〈地区委員会〉	
大庫 俊介(S46文)〈地区担当〉	委員長 井奥 貴子(H3経営)	
松本 浩一(S49文)〈広報担当〉	副委員長 丹後 昌博(S54法)	
幹事長 栗山 隆博(S62文)	津田 裕昭(H20法)	
会計 榎谷 有美(H3経営)	〈広報委員会〉	
監事 西尾 淳(S39経営)	委員長 新浜 義孝(S62理)	
籠谷 紘義(S40経営)	副委員長 富居 雅人(S62文)	
同窓会本部理事 富居 雅人(S62文)	森 正英(H26FS)	
事務局長 澤本 武司(H6理)		

入会のご案内

- 目的…甲南大学同窓会の東播磨支部として、本部及び大学との連絡を密にするとともに会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 入会資格…甲南学園卒業生で加古川市、高砂市、加古郡及びその近郊に在住、勤務。
- 入会金…終身会費1万円(初回のみ)
- 入会方法…総会時受付で申し出ていただくか、直接事務局へ。
- その他のご負担…総会・行事等毎に参加者からその都度会費(実費)をいただきます。

■事務局
〒675-0017
加古川市野口町良野365-11
行政書士澤本事務所 澤本武司 気付

東播磨甲南会

TEL 079-421-1747
FAX 079-439-2842
E-mail sawamoto@gyosei.or.jp

本年度の加古川「知」を結ぶプロジェクトは母校の長坂学長にもお越しいただくことが叶い、例年よりさらに豪華な顔ぶれとなった。
 学生達のレベルは去年から更に上がっている。本プロジェクトを継続している効果が出はじめており、中間・最終報告会ともに、様々な部分に「改善」が光った。
 最優秀賞獲得チームである西村ゼミ3年生チームは、今回の企業訪問でも伺った有会社りなどの新たなメニューを考案した。このメニューにはなんと、前回の企業訪問で伺った有会社プロッサムとのコラボプランがあり、プロジェクトと共に甲南の輪も成長していると感じた。この良い循環を続けていけるよう、我々OB・OGも最大限努力していきたいと思つた。
 (M・M)

編集後記